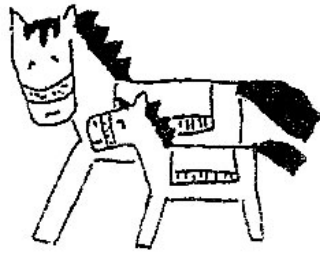


お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと

令和3年 2月 NO.315



〒760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松第二保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://oumanooyako.sakura.ne.jp/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～		2月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
2月	4日 18日	木	こうさぎおはなし会 15:30～16:30	低年齢のお子様も楽しめるおはなし会です。 どうぞおいでください。	
2月	6日 13日	土	体験保育 10:00～12:00	同年齢の子どもたちと一緒に遊びましょう。	
2月	12日 26日	金	うたうたい「カラヴィンカ」 19:00～20:30	コロナ対策をしながら、新曲をうたっています。	
2月	16日	火	香川みずぶさんの会 14:00～16:00	お好きな絵本を持ちよって、絵本への思いを お互いにフリートークしましょう。	
2月	20日	土	おとなアート 14:00～16:00	節分は終わりましたが、鬼の顔のしわや ゴツゴツした感じを粘土で表現しましょう。	

<p>・火～土の9:00～18:00までは、園内開放していますので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み)</p>	<p>育児相談(月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、保育園生活 入園・見学についての相談もどうぞ。</p>
--	--



金子みすゞ童話全集6
「さみしい王女・下」より

雪

誰も知らない野の果てで
青い小鳥が死にました。
さむい、さむい、くれ方に。
そのなきがらを埋めよとて
お空は雪を撒(ま)きました。
ふかく、ふかく、音もなく。
人は知らねど、人里の、
家もおともにもたちました。
しろい、しろい、被衣(かつぎ)着て。
やがてあけゆくあくる朝、
お空はみごとに晴れました。
あおく、あおく、うつくしく。
小さいきれいなたましいの、
神さまのお国へゆくみちを、
ひろく、ひろく、あけようと。

すぐに止めない！？ こどものけんか

専門家に聞く

心理的には、けんかをすぐに止める必要は
まったくありません



東京学芸大学国際教育センター教授 松井 智子

発達心理学の視点から、子どもにとってのけんかの意義と、保育者の役割について伺いました。

〈編集部〉 子どもにとってのけんかの意義とはなんでしょう。

〈松井〉 幼児期の子どもたちは、いろいろな体験を通して、自分の感情や思考に気がつき、他人は自分とは異なる考えや感情を持っていることを理解していきます。この心の発達を促すために最適な条件が、子どもが「コミュニケーションの当事者」となること。けんかはまさに「当事者」にならざるを得ない場面です。

特定の相手が自分に対して何かを要求している。自分も相手に関心があって、要求したいことがあるという場面では、自分の気持ちや考えだけでなく、相手の心の動きも捉えやすくなります。それは第三者として傍観しているときよりも、はるかにインパクトが大きな体験です。

〈編〉 仲良く遊ぶだけでは、心の発達は促せないということでしょうか。

〈松井〉 もちろん、子ども同士が共感し合っている場面でも心の発達は促されますが、「みんな（気持ち）同じだね。楽しいね」という状況では、心に負担はかかりません。これに対して、自分の意見が通らない、思うようにならない状況は、ネガティブな感情をどうやったら解消できるのか、子ども自身が考える機会となります。

こうしたことから、心理学的には、子ども同士のけんかが起こったときにすぐに止める必要はまったくありません。むしろ、心の発達を促し、社会性を養う絶好の機会と考えます。



〈編〉 では、保育者はどう対応するのがよいのでしょうか。

〈松井〉 自分の考えを言葉にして伝え、相手の言い分も聞きつつ、交渉して着

地点を探るには、かなり高度なコミュニケーション能力が必要です。自他の区別があいまいな3歳まではまず無理なので、タイミングを見て介入する必要があると思います。

でも、保育者が間に入るのは、よしあしを判断して叱ったり、けんかを早く収めたりするためではありません。お互いの心の理解や交渉能力の獲得につながるように、気持ちを言葉にして相手に伝える手助けをすること。そして、お互いの気持ちを理解したうえで、納得できる妥協点を見つけられるようにサポートすることです。

こうした経験を重ねて5歳ぐらいになれば、それまでに培ったスキルを駆使して、子ども同士で解決することもできるようになっていきます。

〈編〉コミュニケーションが深まらず、形式的な「ごめんね」で、すべてリセットしようとする子どもがいます。どう思いますか。

〈松井〉「ごめんね」「いいよ」というやりとりが、仲のよい友だち同士で、場面を変えるための一つの儀式として行われているのであれば、そのままでいいと思います。

ただし、どちらかが消化できないモヤモヤを抱えていると感じたときには、「〇〇ちゃんはどうしたいの？」と、保育者が本音を聞くことは必要です。その場で相互交渉のやりとりにつなげられたら理想的ですが、それは難しい場合でも、後で保育者と2人になる場面で聞いてほしいと思います。

〈編〉けんかの機会が少なくなったからか、親がすぐ止めるからか、加減がわからずに、手が出ると度を超す子どもが増えているとも聞きます。

〈松井〉けんかの際に手が出ることと、言語力は反比例します。言語力が高い子どもは、気持ちを言葉にして伝え、状況を改善することができるので欲求不満を抱えずにすみます。でも、言語化できない子は、場面を変えるためには手を出すしか方法がありません。

ある程度年齢が上がったのに手が出るのなら、その子の言語力がどうなのか注意してほしいと思います。このような子が増えているとしたら、格差社会が加速したせいかもしれません。家庭での経験の差が、子どもの言語力、コミュニケーション能力の差となって現れていることも考えられます。そうだとしたら、どうやってコミュニケーション能力を高めていけるのか、けんかも大

切な教育の機会として、保育現場で生かしてほしいと思います。

松井 智子…専門は心理言語学、語用論、発達心理学。



最近の研究テーマは、子どもの対人コミュニケーション能力の発達。

著者に『子どものうそ、大人の皮肉』（岩波書店）がある。

けんか介入ポイント、私の場合

* 1対1で、素手で、危険なものがない場所で

けんかは相手を知る大切な経験と思っているので、基本、1対1であること、素手であること、周りに危険なものがないことを前提に、いつでも止めに入れる場所で見守ります。（千葉県 私立保育園主任）

* 周りの子を巻き込んで、一緒に考える



0～1歳児では、どうしても手が出そうになるとけがにつながるので、すぐそばについて止め、気持ちを代弁しています。

幼児になってくると、なるべく見守るようにしていますが、やはりどちらかが手を出して傷つけそうになった場合は止めます。周囲の子たちを巻き込んで、相手がどう思ったのか、思っているか、どうしたらよかったのか、一緒に考えるように気をつけています。（埼玉県 私立保育園主任）

* 大人に都合のいい調和的解決を求めない

4歳以上は緊急性がない限り、見守ります。そして、子ども同士でどのように解決するのかを待ちます。双方が納得して解決していないときは、「どうしたの？困っていたら助けるけれど」と声をかけて、助けを求めてきたときにはそれに応じるようにしています。

基本的には、大人にとって調和の取れた解決に導かないようにしています。けんかを通して、さまざまに心が揺れる体験を奪わないようにしたいので、即時解決は求めません。

4歳未満の場合は、危険が伴うときには仲裁に入ります。介入するときには、子どもの行動や結果を重要視しないようにしています。できるだけそれぞれの思いを聞き、その子の思いを表現するにはどうしたらいいかを伝えるようにしています。（東京都 認定こども園副園長）